

今夏、学生の学びの旅をサポート 「みらい塾」九州スタディツアー開講

—日本近代医学発祥の地・長崎で「健康と人間の安全保障」を考える—

笹川保健財団（東京都港区、会長 喜多悦子）は、「すべての人が自分らしく、よりよく生きてゆける世界」を目指し、保健・医療の現場でグローバルに活躍できる人材育成を目的に、国内外における研修、セミナー等を実施しています。

今年度より新たに、日本のみならず世界の未来の健康問題を考え、対処できる人材育成を目標とした『みらい塾』を開講します。

初年度の2023年は、長崎を拠点に、わが国の医学とその教育、保健衛生改善の歴史を学ぶとともに、工業化に伴う負の経験やなお残る課題、将来に向けた懸念も考えるセミナーを実施します。



期 間：2023年8月28日(月)～9月1日(金)の5日間

主 催：公益財団法人 笹川保健財団

内 容：長崎大学、出島メッセ長崎での講義・グループワーク（地域・離島医療、原爆医療、災害等）、長崎市内の関連施設や世界遺産の見学等

参加者：医療・保健分野の学生等（12名）

※参加費無料（宿泊、施設見学等の費用については財団で負担）

長崎は、日本の近代医学発祥の地であり、国際的な情報や知識の交流地でもありました。また、古くから感染症の入り口としても知られており、天然痘やコレラ、インフルエンザなどが広まった地でもありました。九州地域には沖縄を含めて、原爆被災地や外国軍の侵攻地 (Complex Emergency) の跡、水俣病やカネミ油症などの産業化に伴う環境問題、さらに地震や火山、豪雨水害などの自然災害も多く起こります。そのため、保健医療に関する話題が豊富です。さらに、隠れキリシタンやハンセン病療養所などの歴史的な出来事から、差別や迫害との闘いの歴史も存在します。近年では、台湾や朝鮮半島などの国境問題が身近に感じられることもあります。

「みらい塾」の副題は、「健康と人間の安全保障」(Health & Human Security)です。このスタディツアーでは、医学や保健の歴史を中心に学びながら、保健、衛生、安全に関する理解を深める機会を提供し、若者たちが自ら問題に気づき、どのような行動を取るべきかを考える機会を作りたいと考えています。

【スケジュール】

1日目 (28日/月) 13:00~ 17:00	開講式、オリエンテーション、講義 (@出島メッセ) <ul style="list-style-type: none"> ・喜多悦子 (笹川保健財団会長) 「今、何故、人間の安全保障か？」 ・李 節子 先生 (長崎県立大学看護栄養学部看護学科教授) 「在日外国人の健康支援－健康権／人権の視点から」 ・因 京子 先生 (九州工業大学非常勤講師) 当日の講義内容を踏まえた意見交換
2日目 (29日/火) 8:30~ 17:00	午前：講義 (@出島メッセ) <ul style="list-style-type: none"> ・大津留晶 先生 (おおつる内科医院医師／長崎大学客員教授) 「原子力災害における健康影響とその対応」 ・緑川早苗 先生 (宮城学院女子大学生生活科学部食品栄養学科教授) 「住民の意思決定支援について考える～原発事故後の健康調査を例に～」 午後：施設見学 <ul style="list-style-type: none"> ・長崎原爆資料館、平和公園など
3日目 (30日/水) 9:00~ 17:00	講義、熱帯医学ミュージアム等の見学 (@長崎大学) <ul style="list-style-type: none"> ・永田康浩 先生 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科地域医療学分野教授) 「長崎、離島の眼差し－地域医療の原点と未来－」 ・山本太郎 先生 (長崎大学熱帯医学研究所国際保健学分野教授) 「感染症を考える、歴史に学ぶこと、今、私たちが考えるべきこと」 ・有吉紅也 先生 (長崎大学熱帯医学研究所臨床感染症学分野教授) ・杉本尊史 先生 (長崎大学病院へき地病院再生支援・教育機構国際医療人育成室助手) 「Think globally, act locally. ～ザンビア農村部からの学び～」
4日目 (31日/木)	終日フィールドワーク 世界遺産 (軍艦島クルーズ)、シーボルト記念館等の見学を予定
5日目 (1日/金)	グループワーク (成果発表)、意見交換、閉講式

【講師】



李 節子 先生



大津留 晶 先生



緑川 早苗 先生



永田 康浩 先生



山本 太郎 先生



有吉 紅也 先生



杉本 尊史 先生



因 京子 先生



喜多 悦子 会長

(参考)

1824年、シーボルトが長崎郊外に診療所も兼ねた私塾「鳴滝塾」を設けた。シーボルトは、ここで日本の若者に西洋医学や自然科学などの幅広い分野を教授した。その後、オランダ海軍軍医ポンペが1857年に医学伝習所を開設（長崎大学医学部の前身）し、そこにおいて、松本良順とその弟子たち12名に最初の講義が行われ、日本初の系統的な近代西洋医学教育が開始された。

長与専齋は、ポンペのもとで西洋医学を修め、後に文部省医務局長、内務省衛生局の初代局長となり、医制の制定、防疫・検疫制度の導入など、わが国衛生行政の基礎を築いた。

【問い合わせ先】

笹川保健財団 事業部（地域保健）

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル 5階

TEL:03-6229-5377 / e-mail:community_health@shf.or.jp